

市町村名	那覇市
------	-----

平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-9 亜熱帯農作物加工支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-イ
担当部課名	経済観光部 商工農水課	事業実施(予定)年度	平成24年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	流通・販売・加工対策の強化 -1-(6)

事業内容
本市産業の振興発展を図るため、ハーブの一種であるバジルを原料としたバジルスソースの生産加工機材整備に対する支援を行い、本市農業の振興を行う。

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a)当初予算額	1,838				
	(b)予算現額	1,838				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)前年度繰越額	-				
	A.計(b+d)	1,838				
	B.執行済額	1,838				
	うち交付金充当額	1,470				
	次年度繰越額	0				
	執行率(%) (B/A)	100.0%				
	予算の状況の説明	計画通りに執行した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)	達成状況				
		24年度	25年度	26年度	27年度	
	地元野菜の加工商品製造機材導入支援	目標	(1団体)			()
		実績	1団体			
		目標	()			()
		実績				
達成状況説明	地元農家が栽培した野菜を使用した加工品の大量生産に必要な機材整備がなされた					

成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)	基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)
			地元野菜の加工商品製造機材導入支援件数	目標 (0)	(1件)	()
[参考指標] バジルスソース生産個数	目標	(0)		(1,000)	(2,000)	(1,300)
	実績		1件	424	783	820
[参考指標] 原材料供給農家戸数	目標	(0)	(1)	(1)	(2)	(3)
	実績		1	2	3	3

進捗状況説明
H24年度は農家が栽培したバジルを使用した加工品の大量生産に必要なミキサー1台、シーラー1台、充填機1台を沖縄県農業協同組合小禄支店へ整備した。
H25年度のバジル生産個数については、バジルを供給している農家の体調不良による離農及び夏場の干ばつ、秋口の台風による生産量の低下による理由から生産個数が目標よりも下回った。しかしながら新たな供給農家の確保が行われており、生産の維持を図ることができた。本市でも、生産個数回復のため、沖縄県農業協同組合小禄支店へ目標達成に向けて事業の取組について改善を求めるとともに、「地元野菜がジョートーサー事業」等関連事業を介してのPR及び活用促進の取組を実施した。
H26年度は更なる供給体制づくりのため、別事業にてハーブ(バジル)を対象とした「強化ビニールハウス設置補助事業」を実施し、この事業で設置したビニールハウスを活用している1農家が供給農家となり、供給体制づくりが確実に進んでいるが、原材料そのもののフレッシュバジルの需要が高まっており、加工用にあまる原材料が減少したが、ハーブ全体の生産量、出荷量は増加している。
今後は加工品(バジルスソース)への原材料の安定供給を図るため、ハーブ生産農家を増やしていくとともに、関係機関と効果的な取組を行っていく。
H27年度は、道の駅豊崎内の「JAおきなわ食堂菜々色畑」での販売を開始し、生産・販売ともに伸びつつあったが、バジルベト病の蔓延により、バジルの生産量が激減し、それに伴いバジルスソースの原材料の供給も減少し、生産目標に届かなかった。各種イベント開催時での売り上げは伸びてきているので、原材料の供給が安定すれば生産量も順調に伸びていくものと思われる。
今後は加工品(バジルスソース)への原材料の安定供給を図るため、バジルの生産量の増加及びバジル生産農家を増やしていくなどの取組めとともに、販売網の拡大や、PR等の充実を図りながら、関係機関と効果的な取組を行っていく。

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>本市在住の農家の中で、特に売上が大きい品目であるハーブを活用した加工品にバジルソースがあるが、この加工を促進を図るため機材の導入を要望する農業関係団体(沖縄県農業協同組合小禄支店)へ補助事業を行い、ミキサー1台、シーラー1台、充填機1台を導入した。</p> <p>補助を受けた沖縄県農業協同組合小禄支店は導入した機材の活用に向けて、H24年度は生産者の負担軽減とバジルソースの生産維持と拡大へ向けた取り組みを実施した。</p> <p>しかしながら、平成25年度については、バジルを供給している農家の体調不良による離農及び夏場の干ばつ、秋口の台風の原因により供給量が減り、生産個数が減少した。</p> <p>平成26年度には、供給体制づくりのため別事業にてハーブ(バジル)を対象とした「強化ビニールハウス設置補助事業」を実施し、この事業で設置されたビニールハウスを利用している1農家が供給農家として加わり供給農家が3戸となり、原材料の確保に向けた体制づくりは進んでいる。また生産個数の増に向けて、補助事業実施団体である沖縄県農業協同組合小禄支店へ事業の改善を求めるとともに、「地元野菜がジョートーサー事業」等関連事業を介してのPR及び活用促進の取組を実施した。原材料そのもののフレッシュバジルの需要が高まっており、加工品にまわる原材料は減少したが、バジル出荷量は増加している。</p> <p>平成27年度は販売網の拡大を図り、生産量の増加を目指したが、バジルベと病の影響で原材料の供給が減少し、生産量が目標値に届かなかったものの、前年度を上回って生産しており、今後はPR活動の充実を図りさらなる販売拡大に繋げる。</p>	<p>H25年度の生産個数の落ち込みを受けて、ハーブ(バジル)を対象とした「強化ビニールハウス設置補助事業」を実施し、供給農家の確保を実施した。</p> <p>加工商品の生産個数が目標に満たない状況であったため、補助事業実施団体と事業進捗状況についての会議をもち、現状の課題及び今後の取組みについての改善を求め、バジル生産農家の振興に向けた取組む。</p> <p>今後の本市バジル生産農家振興を図る供ためにも、生産農家を増やしていくとともに、ハーブ原材料価格が暴落した際には、加工品が農家の出荷先の受け皿となるように沖縄県農業協同組合と効果的な取組を検討する。</p> <p>H26年度は、原材料そのもののフレッシュバジルの需要が高まっており、加工品にまわる原材料は減少したが、バジル出荷量は増加している現状を踏まえ、沖縄県農業協同組合小禄支店と連携し、供給農家の拡充にむけて取組む。</p> <p>H27年度は、バジルベと病が発生しバジル生産量が激減した。バジル生産農家を増やし生産量の増加について、生産農家や沖縄県農業協同組合小禄支店と連携し、原材料の安定供給に向けた取組が必要である。</p>

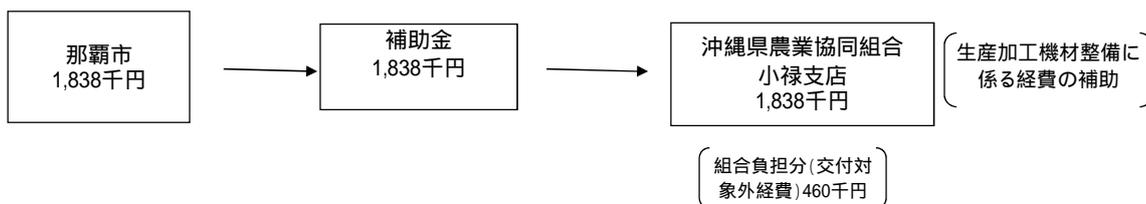
今後の取り組み方針

今後は沖縄県農業協同組合小禄支店と事業進捗状況についての会議をもち、今後のバジルソースの生産に関してバジル農家の振興も含めて状況を確認するとともに、原材料の確保、生産の向上、販路の拡大及びPR活動の充実等、バジル生産農家の振興発展に向けた加工品の効果的な活用の取組について沖縄県農業協同組合とともに取組を検討する。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
2,298	1,838	1,470	368	460



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	那覇市農業振興対策補助金交付要綱に基づき適切に執行されている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	